

【下松市】中村地域 大規模災害対応訓練

〈ねらい〉

- 児童が防災について学ぶとともに、大規模災害を想定した防災訓練や避難所生活、救急救命訓練等を含む総合的な体験学習を実施する。
- 児童が災害発生時において、正しい知識をもとに的確に状況を判断し、自ら安全に行動することはもとより、他の人や社会に貢献できる心と実践力の育成を図る。

実 施 内 容

【1日目】

- 1 実施日時：令和7年5月7日（水）
- 2 実施場所：下松市立中村小学校 体育館
- 3 参加者：6年生児童46名、教職員3名、日本赤十字社山口支部職員4名
- 4 プログラム

13:45 14:30

【救命救急訓練】

- ・胸骨圧迫
- ・AED操作

【2日目】

- 1 実施日時：令和7年9月30日（火）
- 2 実施場所：下松市立中村小学校 体育館
- 3 参加者：4年生児童53名、学校運営協議会委員5名、下松市防災危機管理課職員3名
地域住民5名、自治会長7名、中学校区教職員3名
- 4 プログラム

14:05 14:50 15:40

プログラム1

【講義】

- 災害に備えよう
- ・危ない場所を知る
- ・情報を集める
- ・避難方法を知る

プログラム2

【避難所設営体験】

- パーテーション
- 段ボールベッド
- 簡易トイレ
- タワーライト
- アルファ化米

プログラム3

【振り返り】

- 今日の学習で大切なこと

5 活動の様子

1日目

《救急救命訓練》

6年の全児童が、救急救命法講習を受けました。ほとんどの子どもたちが初めての体験でしたが、大切な人の命を守るために、胸骨圧迫やAEDの操作について、真剣な表情で学んでいました。

《成果》

子どもたちが救急救命法を受講して、大きく4つの成果がありました。

- 1 命を救う力を「自分ごと」に
実際に手を動かすことで、「自分にもできる」「自分が助けるかもしれない」という意識が芽生えます。また、机上の知識だけではなく、行動につながる自信を育てることができます。
- 2 小学生でもできるという事実の体感
胸骨圧迫は力が必要ですが、正しい姿勢やリズムを学べば小学生でも十分に効果的な圧迫が可能です。



【胸骨圧迫】

3 心肺蘇生の重要性を早期に理解

AEDは音声ガイド付きで操作が簡単です。心停止は年齢を問わず起こり得る緊急事態で、早期の対応が生存率を大きく左右します。そのため、子どもたちが実際にAEDに触ることで「怖くない」「使える」と感じることに大きな意義があります。

4 社会的責任感と共感力の育成

「119番通報」「胸骨圧迫」「AED使用」の流れを体験することで、命の連鎖の一員になれることを学びます。「誰かの命を救えるかもしれない」という経験は、他者への思いやりや責任感を育てます。また、チームでの訓練を通じて協力する姿勢も養われます。

2日目

《事前学習》

4年生が中村公民館を訪問し、公民館における防災の取組について学習しました。公民館には災害用マンホールトイレがあることが分かりました。これは、既存の下水道マンホールの上に仮設便座やテントを設置し、井戸水をポンプで汲み上げ、尿を直接下水道に流すことができる災害用トイレです。水洗トイレが使えない状況でも、衛生的かつ安心して利用できることに、子どもたちは大変驚いていました。

そのほかにも、公民館には災害に備えて、非常食や飲料水、毛布、ランタンなどが常備されていることがわかりました。



【中村公民館の防災グッズ】

《下松市での過去の災害》

過去に下松市で起きた災害について、写真で紹介されました。子どもたちが生まれる前の災害ですが、周りの建物などから、市内のどのあたりで起きたものであるか、ほとんどの児童が理解できました。

災害は、決してひとごと、よその地域のことではないことが分かりました。

《講義》

今回の講義のテーマは「災害に備えよう」です。「講義」では、災害に備えるために3つのことが大切であるということを学びました。

1つ目は「危ない場所を知る」ということです。まず、ハザードマップで中村小学校の周りを見てみました。中村小は、0.5～3.0m未満、2階まで浸水する恐れがあることが分かりました。次に、校区全体を見てみました。校区は、末武川と平田川にはさまれており、校区のほとんどの場所が、学校の周りと同様の浸水被害にあう可能性があることを確認しました。また、本校は、学校周辺も含め道幅が狭い道路が多く、蓋がついていない溝も多数存在しています。水かさが増したときには傘や杖などで足元を確認しながら慎重に進む必要があること、冠水した道路では草木が水に隠れていて足元が見えづらく、つまずいてけがをする可能性があることを教わりました。そして、けがをすると傷口から菌が侵入し、破傷風等の重篤な感染症を引き起こす可能性があるので、「小さな傷だから大丈夫」と思わず早めの対応が命を守る鍵だということを分かりました。

2つ目は「情報を集める」についてです。天気予報を見る、市のホームページで川の状況を確認する、下松メールや下松市公式LINEにあらかじめ登録しておくなど、情報を集める手段を教えていただきました。下松メールや下松市公式LINEでは、気象情報だけでなく、避難情報や避難所開設情報も提供していることを知ることができました。また、ホームページでは、市内の河川の状況をライブ映像で見ることができ、大雨の時には校区を流れる末武川の映像を確認するとよいことを



【受講の様子】

教わりました。

3つ目は、「避難方法を知る」です。警戒レベルごとに自分がとるべき行動、家族がとるべき行動を教えていただきました。また、避難場所として、「避難所」「親戚の家」「ホテル・旅館」を例示されました。また、自分の家にいることを選択する場合には、ハザードマップで色についていることを確認すること、2階以上で安全を確保できる家であることが必要だとお話しされました。

そして、「ハザードマップを見よう」「家でどんな備えをしている親に聞こう」「避難指示があつたらどのような行動をとるかシミュレーションしておこう」というお話を講義を総括されました。

《避難所設営体験》

初めに、「アルファ化米」の紹介がありました。電気やガスが止まったときでも、水だけで調理できることを知りました。調理したアルファ化米は、約1時間後に食べられる状態になりました。ある児童は、「米はもっちりとしておいしそうだった。」と言っていました。実際に担任が試食しましたが、想像以上のおいしさだったそうです。温かいお湯が準備できればもっと早く、もっとおいしくできるとのことです。この日は、下松市で管理している賞味期限間近のアルファ化米を4年生の児童と参加してくださった地域の方々にいただきました。児童は、ビスケットもいただきました。家でアルファ化米やビスケットを食べながら、家族で防災についての話が弾んだようです。

次に、グループに分かれてパーテーションと段ボールベッドを組み立てました。パーテーションは思いのほか、簡単に設置することができました。ベッドについては、段ボール一つ一つに補強のために仕切りを入れる作業があり、組み立てるのに時間を要しました。段ボールベッドは、ものによつては600kgの重さに耐えられるだけの強度があるそうです。今回組み立てたものも、子ども2人が横になっても、安定感がありました。地域の方も、段ボールベッドに寝たり座ったりしていました。

災害時に使用する「タワーライト」を見せていただきました。光を当てる方向や高さなどを自由に変更できるものでした。

また、簡易トイレにも座らせていただきました。洋式トイレのように腰掛けて使用できるため、特に高齢者や体の不自由な方に優しい設計でした。子どもたちは座り心地が悪いと言っていましたが、避難所などでも抵抗感なく使えるものでした。洋式型の形状に合わせて、便座部分にゴミ袋や凝固剤をセットできるため、使用後の処理もスムーズにできるそうです。



【段ボールベッドを組み立てる様子】



【段ボールベッドに座る地域の方】



【完成したパーテーション】



【完成した段ボールベッド】



【簡易トイレ】

《振り返り》

「今日習ったことでたいせつなことは?」というテーマで振り返りを行いました。子どもたちからは、「災害が起こったときのために、非常バッグや食料を準備しておく必要がある」や、「災害が

起きやすい場所を覚えておきたい」というような意見が出されました。講師からの、「みんなが考えたことはすべて正解です。大切なのはみんなで考えることです。」の言葉で、大規模災害訓練は終了しました。

【児童・保護者の感想から】

《児童》

- 中村公民館は、避難所になることに備えて部屋もたくさんあり、非常食や飲料水、毛布などがたくさんありました。
- 下松市ではこれまで大きな災害がなかったと思っていたけれど、川が氾濫していたことに驚きました。
- 避難警戒レベルは、レベル5まであることが分かりました。
- 災害が起ったときに、人に頼るのではなく、「自分の身は自分で守る」ということが勉強になりました。
- 電気やガスが使えないときでも、水だけでできるお米があると知って、便利だと思いました。お米はもっちりとしているようでした。
- 災害が起つたときのために、非常バッグや食料を用意しておきたいです。また、家に帰つたら家族にも伝えたいです。
- 川や田んぼ、溝など、校区や家の周りの災害が起きやすい場所や危ない場所を覚えておきたいです。
- 災害が起つたときは、協力することが必要だと分かりました。例えば、段ボールベッドやパーテーションを組み立てるときは一人ではできないので、協力することが大切だと思いました。
- 段ボールベッドは弱いイメージがあったけれど、子どもが二人乗っても大丈夫だったので驚きました。トイレも強度がすごくてびっくりしました。
- 家に帰つてから、家族と災害時にどこで会うか場所を決めました。会う場所は中村小学校になりました。
- うちには防災のルールが何もなかったので、「しっかりと準備をしないといけないね」と親と話しました。

《保護者》

- 以前、非常食を食べた際は、あまりおいしく感じなかったのですが、今回のアルファ化米はおいしくいただくことができました。いつ災害が起こるか分からないので、非常物品を見直すきっかけになりました。
- 非常食は「おいしくない」と思い込んでいたけど、とてもおいしくて簡単にできるので驚きました。普段、防災について話す機会がなかったので、これからは定期的に話し合い、備えておきたいです。
- 日ごろから気になっていたけれど話す機会がなかったので、防災について考えるよい機会になりました。今、家にあるもの、賞味期限、不足しているものを子どもと一緒にチェックしました。
- 「くだまつ暮らしの便利帳」からQRコードで各種ハザードマップを確認しました。我が家は比較的安全と言える地域でしたが、被災時の避難場所や集合場所について話し合いました。
- 学校で学んだことを家でしっかりと話をしてくれたので、よい体験をしたんだなと思いました。体験したことを楽しそうに話してくれたのがとても印象に残りました。